

令和 8 年 第 1 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
1	星名大輔	<p>1. 妊婦の搬送支援について 市内唯一の分娩施設が3月末をもって分娩業務を終了することとなり、市外での出産を余儀なくされる妊婦が生じます。最寄りの分娩施設が遠くなることに対し、妊婦の負担感や不安感が高まっており、妊婦に寄り添った丁寧な対応が重要です。移動時間が延伸し、家族関係も変化していることから、妊婦が安心して分娩施設までたどり着くことができるよう、緊急時における妊婦の円滑な救急搬送体制や移動手段の確保も含めた仕組みが必要と考えますが、市長の見解を伺います。</p> <p>2. 市立小学校の再編について 令和元年5月に複式学級の解消を目指して定めた第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針を受け、令和3年4月に田沢小学校と貝野小学校が、昨年4月に水沢小学校と馬場小学校が再編しました。その一方で、目標年度の令和4年度を過ぎても依然として複式学級の小学校があります。小学校の再編に関して、方針の進捗状況、方針策定後の児童数の変化等を受けた方針の見直し及び今後の進め方についてお伺いします。</p>	<p>市 長</p> <p>教育長</p>

令和 8 年 第 1 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
4	野沢浩平	<p>1. 豪雪被害対策について</p> <p>本年1月下旬以降、北日本や日本海側を中心に記録的な大雪が断続的に続き、各地で除雪作業中の事故や交通障害、停電など甚大な被害が相次いで起きました。総務省消防庁のまとめでは、2月11日現在、1月20日以降の大雪に関連した死者数は全国で46人、負傷者は549人に上ります。</p> <p>当市におきましても除雪作業中の事故により、2月16日現在、4名の尊い命が失われています。その他、屋根、梯子からの転落、除雪機による怪我は、報告があるものだけでも重軽傷者含め33名でした。</p> <p>一人暮らしの高齢者からは、自分が出来ないので、知り合いの業者に屋根の雪下ろしを依頼しても、予約人数が多くて断られ、「いつ掘ってもらえるか解らなくて不安だ」との相談がありました。また、子供たちの通学路に面した場所に空き家が有り、1回も雪下ろしをされてなく、倒壊の危険性が有る為、除雪が完了するまで間、やむを得ず通行止めにした所も有りました。</p> <p>今後、益々少子高齢化が進む中、冬季における除雪対策が、今まで以上に必要な状況にあります。そこで、以下の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 雪による被害状況と安全対策について (2) 高齢者の方への除雪補助金の増額及び除雪人員の確保について (3) 雪で外出が困難になった高齢者への支援について (4) 第三者に危険が及ぶ可能性のある所有者などがいない空き家の除雪の対応について (5) 破損した道路の補修計画について (6) 主要道路の排雪作業に伴う交通渋滞の緩和対策について 	市 長

令和 8 年 第 1 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
5	市川直子	<p>1. 若者が戻れるまちをつくるための雇用創出戦略について</p> <p>本市は全国平均を上回る速度で人口減少が進行しており、とりわけ若年層の流出が顕著です。進学や就職を機に市外へ出た若者が「戻りたい」と思った時に、雇用の場があるにもかかわらず若者が戻ってこない現実があり、少子化の進行にも影響していると考えます。</p> <p>十日町市第三次総合計画基本構想では、「力強い産業と雇用を育むまち」を掲げ、企業誘致、D X推進、新規創業支援等を進めるとされています。若者が将来に希望を持ち、この地に定着し、あるいは戻ることができる環境を整えるためには、戦略的に取り組む必要があると考えます。</p> <p>そこで、本市における雇用創出と企業誘致の現状認識、今後の方向性を市長に伺います。</p> <p>(1) 若年層の流出と雇用環境の現状について、市長はどのように認識していますか。</p> <p>(2) 十日町市第三次総合計画に掲げる「力強い産業と雇用を育むまち」を、今後どのように推進していくお考えでしょうか。</p> <p>(3) 若者が「戻れるまち」とするための雇用創出において、企業誘致や若者の職業の選択肢を増やすための取組をどのように進めていくお考えでしょうか。</p>	市 長
6	根津年夫	<p>1. 豪雪地・十日町市におけるこれからの振興策について</p> <p>人口減少と高齢化が進行する中、豪雪地である本市において、住民の生命・財産を守る「克雪」、すなわち雪による困難を克服し、雪国での暮らしを安全かつ快適なものとする取組みは、最優先の行政課題であります。</p> <p>十日町市は、昭和56年のいわゆる「56豪雪」を契機に「克雪都市宣言」を行い、行政と市民が一体となって雪害の克服に取り組むとともに、雪を活かしたまちづくりを内外に表明しました。</p> <p>それから45年が経過した現在、豪雪地における振興策は、雪を単に「克服すべき課題」と捉える段階から、雪との共生を目指す「利雪」の視点や、10年後、20年後を見据えた「持続可能な地域運営」へと大きく転換しつつあります。</p> <p>こうした状況を踏まえ、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 第三次総合計画における克雪・利雪の位置付けについて 令和8年度からの「第三次総合計画」において、克雪・利雪・親雪の考え方をどのように位置付けているのか伺います。</p> <p>(2) D Xを活用した除雪・維持管理について 除雪の担い手不足が深刻化する中、D Xを活用した除雪や冬期間のインフラ維持管理の現状と、今後どのように取り組んでいくのか伺います。</p> <p>(3) 共助の強化について 自助による除雪には限界がある中、地域などによる共助と公助が連携した取組について、市は今後どのように進めていくのか伺います。</p>	市 長

(4) 利雪・遊雪による産業・観光振興について
雪を資源として活用する産業振興・観光振興について、現在の取組と今後の方向性をどのように考えているのか伺います。

2. 小学生の充実した長期休暇の過ごし方について

夏休みをはじめとする長期休暇は、小学生にとって本来、心身を休め、成長につながる大切な時間です。一方で、保護者からは、小学生の居場所や過ごし方について多くの不安や悩みの声が聞かれています。

共働き家庭の増加により、長期休暇中に小学生同士、あるいは小学生だけで過ごす家庭も少なくありません。また、特定の家庭や商業施設に小学生が集中するなど、小学生の居場所が偏在している実態も見受けられます。

さらに、近年の猛暑により屋外での活動が制限され、本来は小学生たちの遊び場である公園等が十分に機能しなくなっている現状があります。調査によれば、共働き家庭においては、約55%の小学生が一人で留守番をしているとの結果もあり、小学生の安全や生活環境への配慮がより一層求められています。

本来、小学生の居場所は、安全が確保され、小学生自身が安心して自分らしく過ごせる場であることが望ましいと考えます。こうした観点から、以下の点について伺います。

(1) 長期休暇中における、毎日の小学生の居場所の確保について

市として、長期休暇中の小学生の居場所の確保について、どのような施策を講じているのか伺います。

(2) 長期休暇の小学生の居場所に関する、小学生や保護者の意見聴取について

小学生や保護者の声を反映させるため、意見を聞く機会や仕組みをどのように設けているのか伺います。

(3) 長期休暇に向けて、小学生への学習面・生活面の指導について

学習機会の確保や生活リズムの維持など、学校でどのような指導を行っているのか伺います。

(4) 犯罪に巻き込まれるリスクが高まる長期休暇中の安全対策について

小学生が被害に遭わないための安全指導や見守り体制について、市としてどのような対策を講じているのか伺います。

教育長

令和 8 年 第 1 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
7	山家悠平	<p>1. 子育て支援の充実について</p> <p>令和8年度から始まる「第三次十日町市総合計画」の重点戦略1「結婚・妊娠・出産の希望をかなえる、子育て支援の充実」を具体化し、人口減少対策の実効性を高めるため、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 第三次十日町市総合計画の重点戦略の初めに挙げられている結婚・妊娠・出産の希望をかなえる、子育て支援の充実についての思いをお聞かせください。</p> <p>(2) 妊婦情報の事前登録と消防・タクシー連携について 万が一の事態に備え、妊婦情報をあらかじめ消防本部及び協定タクシー事業者と共有する「妊婦救急・移動サポートシステム（仮称）」を早急に構築できないでしょうか。紙ベースのアナログでの運用が良いと思います。119番通報やタクシー要請時に、即座に住所と搬送先が特定できる仕組みの導入ができないか伺います。</p> <p>(3) 地域医療を担う将来の医師確保と医学生への支援について 持続可能な医療体制を築くため、看護学生等への既存支援に加え、将来本市で産科医等として勤務する意欲のある医学生に対し、市独自の修学資金貸与やUターン支援を創設するなど、長期的な視点で医師確保に取り組む考えはないか伺います。</p> <p>(4) 現場を支える「保育士」の確保と定着への支援について 総合計画にある医師や建設業等の担い手確保策と同様に、未来の保育士に対する「奨学金返還支援」、移住者への「住居支援」、そして現役保育士の離職を防ぐ「処遇改善や業務負担軽減」などをパッケージ化した、市独自の強力な支援策を早急に講じ、「保育士に選ばれるまち」を目指すべきと考えますが、市長の見解を伺います。</p> <p>(5) 子育て世帯の経済的負担軽減策の拡充について 未就学児の国保税均等割の全額免除や未満児（0～2歳児）保育料の完全無償化、国の対象外である中学校給食費の無償化など市で行った場合それぞれ予算がどれくらい必要になるかの具体的試算とあわせて見解をお聞かせください。</p>	市 長

令和8年第1回定例会一般質問発言順序表

番	質問者	質問題目・要旨	答弁者
8	滝沢 繁	<p>1. 新潟県立まつだい診療センターへの移行と医療介護について</p> <p>12月22日に新潟県議会は県立松代病院を無床の診療所化とする条例改正を反対19、賛成31で可決しました。これは、今後の僻地医療環境が県全体で様変わりする序章ではないかと危惧しております。住民はさぞかし残念だったことと思います。しかし決定された以上は、住民にとってよりよい医療環境を作っていただきたいと考えております。</p> <p>入院機能は十日町病院に移りますが、これまで松代病院が培ってきた訪問診療、訪問看護、看取りなどの「地域包括ケアシステム」を維持し、地域医療を守り抜かなければなりません。それは地域住民の切実な願いであり、私たちの責務であると考えます。</p> <p>私の前回の一般質問に「市として地域包括ケアシステムを担っていく役割は大いにある」と答弁されています。住民からは移行に対し、医師数の複数確保、交通網の整備、そして、診療時間の延長と救急対応を少しでも時間延長してほしいという声が出ています。</p> <p>住民要望に応える体制をどの様に作っていくのか市長の所見を伺います。</p>	市長
9	富井春美	<p>1. 豪雪から暮らしを守る対策について</p> <p>1月20日から降り続いた雪に屋根雪等の雪処理、除排雪等に追われる市民は、雪との大変な日々を送りました。そして、この豪雪で、雪による人的被害、家屋、車庫等の倒壊も起きました。また、空き屋の雪庇落下の危険から道を通行止めにした場所もあります。道路状況も高い雪の壁、道幅の縮小等で交通状況も悪化しました。</p> <p>また、雪が継続する期間では、高齢者世帯の屋根雪等を処理する業者や請負人が見つけられずに四苦八苦されたという声も聞きました。</p> <p>高齢化が進む当市において、以前にも増して雪対策は命と暮らしを守る点から切実な問題であると感じました。</p> <p>特に、雪処理、除排雪等の人材確保に対する今後の対応、考え方についてどのように考えているか伺います。</p>	市長
		<p>2. 学校給食無償化について</p> <p>「保護者の経済的な負担の軽減、子育て支援」として要望されてきた学校給食費の無償化が、小学校に限りですが来年度から実施されることや中学校給食費の価格高騰に対する支援の継続も行われることは歓迎されることです。</p> <p>そこで以下の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 今後の物価変動の中で小学校給食の栄養バランスや栄養価を確保していくことについて</p> <p>(2) 米飯のコシヒカリ使用回数について</p> <p>(3) 中学校給食費も無償化するという考え方について</p>	教育長

令和8年第1回定例会一般質問発言順序表

番	質問者	質問題目・要旨	答弁者
10	中林寛暁	<p>1. 中心市街地活性化について</p> <p>昨年この3月定例会の一般質問において、関口市長から4期16年の取り組みについてお聞かせいただきました。その答弁の中で、「中心市街地が以前のような賑わいを取り戻す、再活性化という観点ではなく、新たな賑わいを作るという思いで取り組んできた。」「里山現代美術館、段十ろうを基点に中心市街地へ誘導していく、という形で新たな人の流れが出来ればいいのではということが今後目指すべき課題の一つになるのではないかとお話されています。</p> <p>(1) 5期目1年が経とうとしている中、今後の中心市街地活性化について、どのように考えているのか、また、どのような事業を計画しているかお聞かせください。</p> <p>(2) 新たな賑わいの創出というお考えの中で、継続して開催されているイベント、「雪まつり」「きものまつり」や「おおまつり」をどのように捉え、どのように関わっていくのかお聞かせください。</p>	市長
		<p>2. 中学校部活動の地域展開について</p> <p>国は、それまで部活動の「地域移行」としていた名称を「地域展開」へと名称を変更することを示しました。</p> <p>また、令和5年度から令和7年度を改革推進期間と位置づけ、休日を中心に部活動を地域に広げる期間としてきたものを、令和8年度から令和13年度を改革実行期間とし、平日の地域クラブ化も推進する方向性も示しました。</p> <p>この「地域移行」から「地域展開」についてどのように変わったのか、本市としてはどのように捉え、どのように展開していくのかお聞かせください。</p> <p>また、今後、国が推進していく平日の地域クラブ化は、どのように進めていくのか本市の考えを伺います。</p>	教育長

令和 8 年 第 1 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
11	樋口富行	<p>1. 基幹産業である農業の発展に力を入れて、元気な十日町市に</p> <p>現在の農地の大区画化による合理化・効率化で採算性を求める農政では、十日町市のような中山間地地域では対応が厳しい状況だと思えます。</p> <p>効率性を求める農業法人は、作業効率が低く、大型機械が使えない小規模区画農地の耕作は行ってくれないため、荒廃する農地が増えるばかりです。</p> <p>農地を守り農業を守るためにも、日本型直接支払い交付金だけでなく、農業法人が小規模区画農地の耕作を受託する際の支援や、家族農家、兼業農家及び小規模農家等に対する支援に力を入れることは、元気な十日町市になることにつながると思えます。そこで次の点について伺います。</p> <p>(1) 小規模農家等への農作業場等の増改築、農業機械更新等への補助制度新設・拡充</p> <p>(2) 農業法人が小規模区画農地を受託する際の小型農業機械購入等支援</p> <p>(3) 農業法人等を新規就農者の研修機関として位置づけ、行政が資金面等で支援する制度の創設</p>	市 長